



## 7月7日 七夕

短冊<sup>たんざく</sup>に願い事を書き、笹竹<sup>ささだけ</sup>に飾る行事として親しまれている七夕。これは中国の伝説と行事が日本に伝わり、日本古来の伝承<sup>でんしょう</sup>や豊作祈願<sup>ほうさくきがん</sup>と交わったのちに様々な形に変化し、現在の姿になりました。今回は、そんな七夕の行事について紹介します。

### ○中国の伝承

#### ◇ 星祭り 牽牛<sup>けんぎゅう</sup>・織女<sup>しょくじょ</sup>伝説

中国では古くから牽牛星は農事を知らせる星、織女星は養蚕<sup>ようさん</sup>や機織<sup>はたお</sup>りの星として信仰されてきました\*。この2つの星は後漢<sup>ごかん</sup>（西暦30～220年）以降、恋人同士といわれるようになりました。牽牛と織女は仕事をせず遊んでばかりだったので、怒った天の神は2人の間に天漢<sup>てんかん</sup>（天の川）を作り、会えないようにしてしまいました。しかし、2つの星は悲しんでばかりだったため、7月7日の夜だけ川に橋をかけて会えるよう決めました。雨が降るとこの川を渡ることができないといわれています。

### ○日本の伝承

#### ◇ 棚機<sup>たなばため</sup>つ女

日本では古来より、7月7日に乙女が機屋<sup>はたや</sup>に籠<sup>こ</sup>もって機織りをする行事が行われていました。これは神を迎えて一夜を過ごし、翌朝、神を送る時にケガレを持ち去ってもらう<sup>みそぎはらえ</sup>禊<sup>みそぎ</sup>払<sup>はらえ</sup>を目的にしたものでした。

#### ◇ 豊作祈願

七夕の時期は農繁期<sup>のうはんき</sup>にあたるため、農業に差しつかえる眠気を払い、豊作を祈る行事が東北地方や関東地方で行われていました。これらは眠りを流すことから「ねぶた流し」、「ねぶた祭り」と呼ばれています。今でも青森県などで見ることができます。

#### ◇ 盆行事としての七夕

現在は8月に行われることが多い盆行事は、旧暦<sup>きゅうれき</sup>では7月に行われていました。そのため7月7日は「七日盆」といわれ、盆行事が始まる日とされています。盆を迎える準備として墓掃除<sup>むか</sup>をしたり、迎え馬<sup>まこもりうま</sup>（真菰馬）をつくる日でもありました。

この迎え馬は八千代市内にも盆行事のひとつとして深く根付いています。前日に真菰で2頭の馬（馬と牛という家もある）を作り、7日の早朝に近くの川にそのうちの一頭を流しに行きます。この馬に乗って、仏様が帰っ



真菰馬 佐山地区にて  
平成21年撮影

てくるといわれています。残りの一頭は家に飾っておきます。佐山では、一年間飾ったままにしておきます。勝田ではお盆中、仏様が田畑を見回るときに乗ったり、仏様が帰るときに乗っていくといわれました。

## ○中国の伝承が日本に伝わって…

### ☆ 裁縫の上達を祈って

中国では唐代（5世紀ごろ）より、牽牛・織女の伝説が広まり、2つの星に供え物をして祈る「乞巧奠」が行われるようになりました。2つの星の願いがかなう日にあやかって、女性が裁縫の上達を祈る祭りです。

これが日本に伝来すると、特に平安時代の宮中や貴族の間で広まります。宮中の庭に筵を敷き、その上に朱塗りの机を置き、桃・梨・茄子・瓜・大豆・ささげ・干鯛・薄鮑・五色の糸を通した金と銀の針を7本ずつ刺したヒサギの葉を供えます。机の上に琴と香炉、周囲やその間に9本の灯台を置き、そこで2つの星を眺めました。



乞巧奠 八千代市文化伝承館にて  
平成29年撮影

### ☆ 読み書きの上達を祈って

室町時代になると梶の木に歌を書き結びつけたり、硯を供えたりするようになり、江戸時代には天皇が芋の葉に溜まった水で梶の葉に和歌を書き、そうめんて結んで屋根に投げ上げるようになりました。この頃になると形は変わりましたが民衆の間にも乞巧奠は広まり、字が上手に書けるよう祈る行事として定着しました。笹竹を飾るようになったのも江戸時代からのことです。

本内容は、2010年7月より郷土博物館旧ホームページ内「民俗探検隊」コーナーで掲載していた記事を再編集したものです。



### \*ちょっと付け足し

牽牛星・織女星…わし座のアルタイルとこと座のベガのこと。彦星・織姫星ともいい、夏の大三角としても知られている一等星。

養蚕…カイコという虫を育て、その繭から糸を作る産業。

参考文献：『八千代市の歴史 資料編 民俗』八千代市

『日本民俗文化大系9 暦と祭事＝日本人の季節感覚＝』小学館

『日本年中行事辞典』角川小辞典

『日本の年中行事百科 民具で見る日本人のくらし Q&A③ 夏』河出書房新社

やち博ライブラリー 第2号

発行日 令和2年7月31日

編集・発行 八千代市立郷土博物館